

## 20\_情報社会の生活「ネットの友達、信じていいんですか？」

	<p>■■■■■■■■ 物語編 ■■■■■■■■</p> <p>■大学 教室前</p> <p>はるか、詩織、拓真が歩きながら話している。</p>	
拓真	しかし、今日の英語の授業難しかったな～。	
詩織	ほんとよね、なんか分かんない単語も多かったし、何より内容が専門的すぎるわよね。	
拓真	そうだよな・・・課題で出された翻訳どうしよっかな・・・骨が折れそう・・・	
	はるか、余裕の表情でふたりの話を聞いている。 それに気付いた詩織が話しかける。	
詩織	はるか、余裕ねえ。	
はるか	ふふーん。キミたち、今はネットの時代ですぞ。楽勝楽勝。	
拓真	え、でも、ネットの翻訳機能なんてアテにならないじゃん。	
はるか	違うよ～。SNS で、できる人と友達になるんだよ。あたし、英語苦手だからさあ、こないだの課題も SNS で友達になったデヴィッドにアドバイスもらったんだ。あ、答えを教えてもらった訳じゃないよ。あくまでアドバイスね。	
詩織	そういうことね。どうやって知り合ったの？	
はるか	英語の課題が全然分からない～、どうしょ～、えらいこっちゃ、ってつぶやいたら、デヴィッドがたまたまそれをみつけて、手伝いますよって連絡がきたの。そこからラインで連絡するようになったんだ～。	

拓真	な一るほど。俺も試してみよっかな。	
はるか	うんうん。せっかくこんな便利なツールがあるんだし、キミたちもあたしを見習って有効活用したまえ。 得意げにスキップするはるか。顔を見合わせて苦笑する詩織と拓真。	
	<p><b>■はるかの部屋</b></p>	
はるか	<p>はるか、チャットサイトでデヴィッドとやり取りする さてと、さっそく相談してみよっかな。 は「デヴィッド、また助けて欲しいんだけど～。」 デ「ハーイ、はるか、ドウシタノ？」 は「今日ね、英語の授業で出された課題がめっちゃ難しいのだ(泣)ヘルプミー！」 デ「オーケー！できることなら何なりと！」</p>	
はるか	<p>さっすが、頼りになるわあ～。えーっと、内容はつと・・・ は「えっとね、翻訳なんだけど。内容が専門的なの。」 デ「翻訳ね、ワタシ イングランド人だから、英語はトクイデスヨ。アタリマエか(笑)」 は「そりゃそうよ！デヴィッドに日本史とか聞かないよ～」 デ「専門的って、どんな内容デスカ？」 は「翻訳するのがね、科学雑誌か何かから抜粋したものらしくて、専門用語も多くて難解なの。勉強方法すら分からなくて・・・」 デ「オウ！それはハードルが高そうデスネ。ワタシもサイエンスは得意じゃナイデス。」 は「もちろん課題だから、翻訳そのものは自分でやるわ。せめて勉強の仕方とか、参考書とか教えて～！」 デ「オーケー！妻のヴィクトリアがそちらに詳しいので相談してミマス。」 は「わー、サンキュー！！」</p>	

はるか	<p>これで何とかなるかな～～チャットは便利ね～</p> <p><b>■大学 廊下</b></p> <p>翌日。</p> <p>はるか、詩織、拓真が歩きながら話している。</p> <p>はるかのスマホにライムメッセージがくる。</p> <p>はるか、それを見てニンマリする。</p>	
詩織	なーに？どうしたの？	
拓真	さては彼氏からデートの誘いか？？	
はるか	ざーんねん。はずれー。でも吉報には違いないかも。	
詩織	なになに、どんな内容？	
はるか	<p>昨日、難しい英語の課題出たじゃん。で、デヴィッドに相談してみたわけ。</p> <p>まあ、やっぱり専門的すぎてちょっと分からないってことだったんだけど、奥さんのヴィクトリアに聞いてみるってことになったの。</p>	
拓真	それで？	
はるか	そしたら、何とかなるって。ただ、内容的にメールじゃ説明しづらいから、会って話そうってことになったの。	
詩織	ふーん・・・で、会うの？大丈夫？？	
はるか	え、どうして？	
詩織	だって、今までそういうことがあっても、全部ネット上で完結してきたわけでしょ？それを、いきなり会い	

	ましようって・・・	
はるか	大丈夫だって。今までのやり取りで変な感じしなかったし。	
拓真	そりゃそうだよ。最初から、俺は悪い人ですよーっなんて言って近づいてくる奴もいないもんだ。 新手的出会い系かもよ？	
はるか	でもでも、奥さんだっているんだし、女の子目当てって感じはしなけど。	
詩織	その奥さんだって本物かどうかの保証なんてどこにもないでしょ。ネット上の経歴とか写真だって、本当かどうかなんてこっちには確認できないんだし、そんな素性も知らない面識もない男性に会うなんて怖いよ・・・	
	<b>その時、徐に拓真のスマホが着信する。</b> <b>拓真、ひと目見てニンマリしつつも慌ててスマホを隠すように読み、小さくガッツポーズ。</b>	
拓真	よっしゃ。ゲットだぜー！！  <b>突然の拓真の行動に不審がる詩織とはるか。</b>	
詩織	なに？どうしたの？	
拓真	え、あ、いやいや。なんでもないよ～。	
はるか	何よ～ニヤニヤしちゃって。いまゲットだぜーとか言ってなかった??  <b>慌てる拓真。</b>	
はるか	さ、て、は・・・拓真こそ出会い系やってんじゃないの～？	

詩織	えっ?? そうなの? さいてー! 不潔!! 破廉恥!!	
拓真	い、いや、そんなことある訳ないじゃん。違うよ。これはね、合コンのメンバーが足りないから…	
	詩織とはるか、軽蔑の目線。	
	<b>■大学 廊下</b>	
	はるか、うかない表情。	
はるか	どうしようかな…。	
	スマホがライムを着信。	
はるか	デヴィッド…	
	デ「はるか～。いつ会いマスカ? せっかくだからゴハンでも食べながらどうデスカ? オイシイお店予約シマスよ!!」	
	はるか、スマホを見ながら不安げな表情。	
はるか	デヴィッドに限って…そんなことないよね。何回もやり取りしてるし、いい人そうだし…	
	顔を上げ、不安そうにうなづく。	
はるか	会っても…いいよね。大丈夫よね…	